

公表：令和5年3月23日

事業所名：江戸川区篠崎児童発達支援センター

職員による自己評価

A 環境面

- ・定員とスペースの関係については概ね適切である。制度上の人員配置は満たしている。
- ・子どもの数と同じだけ職員がいないと安全性やサービスの質を保って適切に療育をすることが難しいと考えている職員が半数以上いる。
- ・施設のバリアフリー化等、環境は整っている。おむつ交換がやりづらいという意見がある。
- ・消毒をこまめに行うことで清潔で過ごしやすい空間を作ることができている

B 業務改善

- ・クラス内にてミーティングが行われており情報共有がなされている。全体での情報共有の機会が少ないと感じている。

- ・研修の機会がある。
- ・もっと研修の機会が増えると良い。
- ・第三者評価は受けていない。

C 適切な支援の提供

- ・アセスメントを適切に行い、個別支援計画に沿った支援をしている。
- ・肢体不自由児に関しては標準化されたアセスメントツールが使用できていない。

D 関係機関や保護者との連携

- ・他機関との連携はなされているが、さらに連携を強める必要がある。
- ・家族支援について個別に相談に応じている。プログラムとしては行っていない。

E 非常時等の対応

- ・虐待や身体拘束については認識の違いがある。
- ・研修を行い認識の差異をなくす必要がある。

保護者による評価

A 環境面

- ・子どものスペースの確保、職員の配置数、専門性は概ね保たれていて良い。
- ・生活空間は子どもにわかりやすく構造化されており、清潔に保たれている。

B 適切な支援の提供

- ・保育所等訪問支援を行なってはいるが、障害のない子どもと活動する機会はない。
- ・活動プログラムは支援計画に沿って行われていたり、工夫されたりしている。

C 保護者への説明等

- ・子どもがいけないことをした時の対処法を教えてほしい。
- ・医師や療育の紹介をしてほしい。
- ・保護者同士の連携の支援が少ない。懇親会（職員不在で別室で保護者同士が話す会）を開催してほしい
- ・相談については面談でなくても行うことができている。
- ・相談にはのってもらえているが、助言まではもらえない。もっと助言がほしい
- ・職員に相談しやすい。特別なことがなくても毎回話をできている。

D 非常対応

- ・非常時の訓練については多くが実施できている。
- ・さらにアドバイスがあると良い、もっと定期的に行った方が良い。

E 満足度

- ・お子さんは概ね、通所を楽しみにしている。
- ・多くの方が事業所の支援に満足している。



事業所内での分析

【共通点】

- ・厚生労働省が定めた職員の定員やスペース等は満たしているが、アンケートの回答には職員が多い、少ないといった内容が見られた。また、制度について職員への周知が不十分であった。
- ・他の園との交流がなかった。
- ・面談や相談を通して家族支援を行うことができている。
- ・助言が少なかったり、プログラムとしては行っていないなかったり、足りていないところがある。
- ・生活空間は清潔で心地よく過ごせる空間になっている。

【相違点】

- ・非常時の対応について訓練を行っているが、職員だけで行う場合も多かった。
- ・今年度から保護者会を年2回開催した。
- ・個別療育のみ利用している方には提供することができておらず、保護者同士の連携の支援が少なかった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・お子さんが通所を楽しみにされている。
- ・清潔で心地よく過ごせる環境。
- ・日頃から職員間でお子さんの状況を伝えあうことができている。
- ・プログラムが固定化しないように工夫されている。

事業所の改善点

- ・職員の定員は満たしているが、クラスの様子に合わせて配置人数を調整する必要がある。
- ・保護者会等、保護者が参加する機会が少なく、検討が必要。
- ・お子さんの状況は共有できているが、家族支援としては十分ではないため強化する必要がある。

事業所の改善への取り組み

- ・職員の配置については基準を遵守したうえで、安全や療育の質が確保できるような環境設定を検討する。
- ・保護者同士の連携のため、保護者会の頻度、懇親会実施の有無、個別療育のみの方への対応などを検討する。
- ・他機関との連携をとれるように関わりを考えていく。
- ・家族支援の方法について検討する。
- ・職員間での情報の周知を徹底する。
- ・虐待防止についての認識に違いがあるため、研修を実施する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

多くの方が納得されてご利用いただいていることが分かった。しかしながら、その他のご意見とも向き合い、事業所として、職員として対応を考えていく必要があると感じた。
また、昨年同様、職員内でも周知できておらず「わからない」という回答が多いものがあったため、全員がしっかり回答できるように職員間での情報の周知を徹底していきたい。

事業所名 江戸川区篠崎児童発達支援センター

担当者 山本歩美